

(別記)

令和7年度大垣市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、平地の大垣・墨俣地域と中山間地の上石津地域がある。

大垣・墨俣地域においては、用排分離された水田が少なく、水稻以外の作物の作付が難しい状況であり、上石津地域においては、獣害による営農意欲の低下から離農者が増加しつつある。

さらに、市内全域で高齢化、後継者不足による農家数の減少が進んでおり、不作付地の解消と作付可能な作物の選定が課題となっている。

また、主食用米の需要が減少する中、麦・大豆・加工用米・飼料用米・地域振興作物等への転換を図る必要がある。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

(1) 高収益作物の導入

<現状>

本市では、これまでも国の産地交付金を活用して、主食用米から地域振興作物への作付転換の推進などを着実に進めるとともに、それらの生産性が向上する栽培技術の確立・普及を図ることで、水田フル活用による稲作農業者の経営安定化につなげている。

<取組方針・目標>

こうした中、大垣市の稲作農業者の更なる経営安定のため、高収益が期待できる園芸品目の導入によって、稲作農業者の経営複合化の推進が必要である一方、支援体制の強化や機械化による安定生産・安定供給が課題となっている。

このため、本市では、農協が中心となって作物ごとに部会を作り、関係機関とも協力しながら栽培技術や収益性の向上による農業者の経営安定化を進めている。

(2) 転換作物等の付加価値の向上

<現状>

本市における田本地面積は2,431ha（R6）であり、主食用米の作付面積は1,289ha（R6）と水田面積の約53%にあたるが、主食用米の作付面積が減少し、麦、大豆、飼料用米、加工用米などへの転換が進んでいる。

<取組方針・目標>

大規模農家を中心に転換が進む一方、転換作物等の共通の課題として、低コスト生産への取組みがある。麦、大豆では、これまでのブロックローテンションによる水田高度化の取組みを推進しているが、更なる団地化等の取組みによる拡大、また、非主食用米では、多収品種の導入による収益力向上や、低コスト技術の導入を推進する。

また、転換作物も需要に応じた取組みが重要であり、麦、大豆では需要者等の要望に応える量の確保や品質向上を図り、安定供給を進めていく。非主食用米では、複数年契約の推進により、更なる安定供給体制の普及を図る。また、実需者が求める品種の導入など、需要に応じた取組みを推進する。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

<現状・課題>

- ・市内全域で高齢化、後継者不足による農家数の減少が進んでおり、それに合わせて不作付地の増加や分散錯圃が発生している。

農地集積率においては、平坦地域と中山間地域で差があり、また、スケールメリットの働く水田では農地集積率が進んでいるが、労働力を要する市街地や中山間地では集積が遅れており、農地の利用状況の可視化や労働力を確保していく必要がある。

<取組方針>

- ・水田利用率を高め、不作付地の発生防止・解消をするため、複数の作物の組み合わせによる二毛作などにより、水田の高度利用を促進する。なお、二毛作の栽培にあたっては、麦・大豆等の輪作体系をはじめ、畑地でもスケールメリットの見込みがある本市の地域振興作物であるブロッコリーや加工・業務用野菜等の作付けを推進する。

また、水稻を組み入れない作付体系が数年以上定着している水田については、今後も水稻作付に活用される見込みがないか等地域で話し合いをし、その結果によっては畑地化を検討する。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

前年の需要動向や集出荷業者の意向を勘案して米の生産を行うが、減農薬・減化学肥料によるれんげ特別栽培米について、環境保全型農業直接支払制度を用いて知名度・ブランド力の向上を図り、れんげ特別栽培米の主産地としての地位を確立するとともに販路拡大を図る。また、近年需要が増加している業務用米に取り組むことにより、販路拡大と安定した出荷先の確保を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

国内における主食用米の需要が減少する中、水稻以外の作物の作付が難しい地域においては、飼料用米を転作作物の中心と位置づけ生産拡大を図るとともに、土地所有者の理解を得ながら主食用品種から多収品種への転換をすすめることで、生産量の拡大を図る。また、稲わらを収集し家畜のえさとする耕畜連携の取組をすすめることにより所得向上を図る。

イ 加工用米

加工用米についても、飼料用米と同様に、水稻以外の作付が難しい地域を中心として需要に応じた生産を行うことで生産拡大を図る。

ウ 米粉用米

米粉用米についても、飼料用米と同様に、水稻以外の作付が難しい地域を中心として需要に応じた生産を行うことで生産拡大を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

中山間地域を中心に排水不良の農地が多いので、麦・大豆・飼料作物の作付に向かない農地については担い手の団地化によるブロックローテーションの取組を継続することで現状の作付面積を維持するとともに、平野部においては作付面積拡大を図る。並行して、適期作業、排水対策を励行し品質の向上を図る。

麦については、実需者の需要動向を踏まえた品種転換を図ることにより、生産者所得の確保に努める。

大豆については、担い手が行う二毛作の取組を推進することで、作付面積の拡大に努める。ただし、大垣市ではブロッコリーの二毛作も推進しており、二毛作における大豆をブロッコリーへ転換している組織があるため、大豆・ブロッコリーについては年度ごとの需要に応じて作付に取り組む。

飼料作物については、自家利用が多い中で、飼養頭数に合わせた生産に努める。

(4) そば

実需者ニーズに基づいて、そばの栽培を検討するとともに、農地所有者とのマッチングを図りながら作付面積の拡大を図る。

(5) 高収益作物（地域振興作物等）

特産農産物としているブロッコリー、さといも、マコモタケ、加工・業務用のキャ

ベツ・たまねぎ、カミツレについては、産地交付金を活用し生産拡大を図り、地域の所得増加につなげる。

加工・業務用のキャベツ・たまねぎは、年度ごとの需要に応じて作付を選択する。

当地域では、ブロッコリーを大豆とともに小麦後二毛作の主な作物としているため、大豆・ブロッコリーについては年度ごとの需要に応じて作付に取り組む。

また、生産量日本一を誇るカミツレについて、大垣市の特産品として認知度を高めるべく、生産拡大を図る。併せて、大垣薬草組合を中心としたPR活動を推進する。

5 作物ごとの作付予定面積等 ~ **8 産地交付金の活用方法の明細**

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和8年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	1289.7	0	1342.4	0	1280	0
備蓄米	0	0	0	0	0	0
飼料用米	253	0	230	0	320	0
米粉用米	0	0	1	0	1	0
新市場開拓用米	0	0	0	0	0	0
WCS用稲	0	0	0	0	0	0
加工用米	130.4	0	100	0	105	0
麦	255.8	2.7	250	2.5	257.7	2.7
大豆	104.8	100.7	100.5	94.5	102.5	96
飼料作物	8.6	0	9.6	0	9.6	0
・子実用とうもろこし	0	0	0	0	0	0
そば	5.6	2.9	5.4	3	3.6	1.2
なたね	0	0	0	0	0	0
地力増進作物	0	0	0	0	0	0
高収益作物	14.5	6.9	21.1	13.1	22.5	13
・野菜	14.4	6.9	21.0	13.1	22.4	13
・花き・花木	0.1	0	0.1	0	0.1	0
・果樹	0	0	0	0	0	0
・その他の高収益作物	0	0	0	0	0	0
その他	4.2	0.2	3.8	0	3.9	0
・カミツレ	4.2	0.2	3.8	0	3.9	0
畑地化	0	0	0	0	4.5	0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	麦 大豆 そば (基幹作)	畑作物作付助成	作付面積 (ha)	(6年度) 麦 253.05 大豆 4.06 そば 2.64 作付面積(計) 259.75	(8年度) 麦 255.00 大豆 6.50 そば 2.40 作付面積(計) 263.90
			単収 (kg/10a)	(6年度) 麦 200 大豆 41 そば 63	(8年度) 麦 231 大豆 96 そば 85
2	ブロッコリー さといも マコモタケ 加工・業務用野菜 (キャベツ・たまねぎ) カミツレ (基幹作・二毛作)	特産農産物助成	作付面積 (ha)	(6年度) ブロッコリー 7.87 さといも 0.21 マコモタケ 0.11 加工・業務用キャベツ 2.15 加工・業務用たまねぎ 1.19 カミツレ 4.20 作付面積(計) 15.73	(8年度) ブロッコリー 14.00 さといも 0.40 マコモタケ 0.10 加工・業務用キャベツ 3.50 加工・業務用たまねぎ 1.40 カミツレ 3.90 作付面積(計) 23.30
3	加工用米 飼料用米 米粉用米 (基幹作)	非主食用米 低コスト助成	作付面積 (ha)	(6年度) 加工用米 130.37 飼料用米 252.98 米粉用米 0 作付面積(計) 383.35	(8年度) 加工用米 105.00 飼料用米 320.00 米粉用米 1.00 作付面積(計) 426.00
			加工用米の生産費 (千円/10a)	(6年度) 130	(8年度) 127
4	加工用米 飼料用米 米粉用米 (基幹作)	非主食用米 集積拡大助成	作付面積 (ha)	(6年度) 加工用米 108.65 飼料用米 242.61 米粉用米 0 作付面積(計) 351.26	(8年度) 加工用米 85.00 飼料用米 315.00 米粉用米 1.00 作付面積(計) 401.00
			加工用米の生産費 (千円/10a)	(6年度) 130	(8年度) 127
			非主食用米の集積率 (%)	(6年度) 91.6	(8年度) 91.8
5	野菜・花き (基幹作)	野菜等への助成	作付面積 (ha)	(6年度) 野菜 2.84 花き 0.07 作付面積(計) 2.91	(8年度) 野菜 3.00 花き 0.10 作付面積(計) 3.10
6	飼料用米 (基幹作)	わら利用 (耕畜連携) 助成	稲わら収集面積 (ha)	(6年度) 飼料用米 59.35	(8年度) 飼料用米 80.00
7	飼料用米 (基幹作)	資源循環 (耕畜連携) 助成	堆肥散布面積 (ha)	(6年度) 飼料用米 33.13	(8年度) 飼料用米 50.00
8	飼料作物 (基幹作)	飼料作物集積栽培助成	作付面積 (ha)	(6年度) 飼料作物 8.54	(8年度) 飼料作物 9.60

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名: 岐阜県

協議会名: 大垣市農業再生協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1	畑作物作付助成	1	9,000	小麦、大豆、そば(基幹作)	麦・大豆3ha(そば1ha)以上栽培、低コストの取組(農協等共同調製施設を通じて出荷、排水対策、発芽時の害虫防除対策のうちから作物別に1つ以上行うこと)
2	特産農産物助成	1	40,000	ブロッコリー、さといも、マコモタケ、加工・業務用野菜(キャベツ・たまねぎ)、カミツレ(基幹作)	作付面積が10a以上、農協等との出荷契約又は需要者との販売契約の締結等
2	特産農産物助成(二毛作)	2	16,000	ブロッコリー、加工・業務用野菜(キャベツ・たまねぎ)、カミツレ(二毛作)	作付面積が10a以上、農協等との出荷契約又は需要者との販売契約の締結等
3	非主食用米低コスト助成	1	7,000	加工用米、飼料用米、米粉用米(基幹作)	低コストの取組(共同利用施設での乾燥調整、共同(協定)防除の実施、乗用型管理機による追肥や防除作業の実施等のうちから1つ以上行うこと)
4	非主食用米集積拡大助成	1	7,000	加工用米、飼料用米、米粉用米(基幹作)	4ha以上栽培、低コストの取組(共同利用施設での乾燥調整、共同(協定)防除の実施、乗用型管理機による追肥や防除作業の実施等のうちから1つ以上行うこと)
5	野菜等への助成	1	3,000	野菜、花き 等(基幹作)	ファーマーズマーケットなどの直売所への出荷
6	わら利用(耕畜連携)助成	3	5,000	飼料用米(基幹作)	利用供給協定(複数年)締結
7	資源循環(耕畜連携)助成	3	5,000	飼料用米(基幹作)	利用供給協定(複数年)締結
8	飼料作物集積栽培助成	1	9,000	飼料作物(基幹作)	10a以上栽培

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。